

主に誓いを果たす 詩篇 116:1-20

2022. 5. 1(皐月)丘の上 NO. 679
春日部福音自由教会 山田豊

北海道知床岬の観光で、大きな海難事故が起きてしまいました。また、ロシアによるウクライナ侵攻が続いています。こういったことによって命が奪われ、また地球規模の災害や戦争、迫害によって多くの人たちが苦しんでいる中で本日の説教準備をすることは、なかなかつらいことではありました。

この詩篇の作者は、大変つらい状況の中で、神に祈っています。具体的にその苦しみがなんであるかはわかりませんが、「死の網が私を取り巻き、よみの恐怖が私を襲い、私は苦しみと悲しみの中にあった。」と言い、しかも「主よ、どうか私のいのちを助け出してください。」と、祈っているのですから、人生で最大の苦しみを経験していたのだと思われます。

幸いなことに、この詩人は助け出されました。「あなたは私のたましいを死から、私の目を涙から、私の足をつまずきから救い出してくださいました。」と歌うことができたのです。このように救い出されるものは、本当に幸いです。私たちもこの詩人のような苦しみにあった時に、神に叫び求める、神に祈る心を持ち続けたいものです。

しかしながら、このような願いや祈りもむなしく、助け出されることなく命果てることがあります。もう少し元気でいてほしかったと祈っている方が、召されてしまうということもあるでしょう。このような時、私たちは悩み苦しむのです。そして、神に祈ることをやめ、神に誓って行うと言ったことも、放棄してしまうことがあるのです。ところがこの詩人は、15節でこう歌っています。「主の聖徒たちの死は、主の目に尊い。」これはどういうことでしょうか？一番わかりやすいのは、例えば迫害の中でも信仰を全うし、息絶えて逝った人は、確かに尊い人でしょう。カトリック教会では、そのような人たちを聖人と呼ぶこともあります。長崎で処刑されたキリシタンたちは今日では、26聖人と言われていますね。しかし、そのような人たちはそう多くはありません。多くの方は、病や事故などで召されていきます。長寿を全うして、この世を去る人たちもおられます。そのような人たちすべてを含めて、ここでは聖徒とよばれ、その一人一人は主なる神の前に、尊いというのです。人の目には悲しみと悲惨しかないように見えても、主の目には尊いのです。なぜなら、すべての人は神によって生かされているからです。ここが大切です。人は、神によって命を与えられたのです。

自らの生涯が果てるまで、あるいは主イエスが再び来られるまで、与えられた命を全うする誓いを、神の前に新たにされたいのです。

引用聖句

黙示 8:4 香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。

詩篇 141:2 私の祈りが御前への香として手を上げる祈りがタベのささげ物として立ち上りますように。

マルコ 9:24 するとすぐに、その子の父親は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

ピリピ 1:21 私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。

ヤコブ 2:17 同じように、信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです。

1テモテ 5:12 初めの誓いを捨ててしまったと非難を受けることになるからです。

マタイ 14:9-10 王は心を痛めたが、自分が誓ったことであり、列席の人たちの手前もあって、与えるように命じ、人を遣わして、牢の中でヨハネの首をはねさせた。

マタイ 5:33-34 また、昔の人々に対して、『偽って誓ってはならない。あなたが誓ったことを主に果たせ』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。天にかけて誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。

ルカ 1:72-73 主は私たちの父祖たちにあわれみを施し、ご自分の聖なる契約を覚えておられた。私たちの父アブラハムに誓われた誓いを。

創世記 22:17 確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。